

優良賞 題名 支え合える社会になるためには

涌谷中学校 二年 佐藤 芽依

私が小学生の時、近所に認知症をわずらっているおばあさんがいた。そのおばあさんは、一日に何度も周りの家のインターホンを押し、仕事に出かけているはずの娘さんを探していた。

私の近所の人は皆迷惑がっていた。時には、「あなたの娘さんなんて知らないよ。出ていけ。」とおばあさんを叱る人もいた。私もその当時は、迷惑なおばあさんだと思っていた。

それから何年か経ち、私の祖父もまだ少しだが、物忘れが多くなってきた。今は普通に生活できるが、数年後には家で生活できなくなってもおかしくないそうだ。年を重ねれば、誰だって認知症になるリスクは高くなることがわかった。

私はふと、数年前のおばあさんの事を思い出した。あのおばあさんも、引越してきたばかりの頃は普通に生活をしていた。彼女が数年前周りの家を何度も訪ねていたのは、迷惑をかけようとしたのではなく、娘が心配だったからなのだ。その時、近所の人がとるべき行動は何だったのだろうか。

私は、「必ず帰ってきますよ。」などの優しい言葉をかけ、誰かがそばにいてあげるべきだったのではないかと思う。そうしたら、きつと安心して娘の帰りを待てたのではないか。私は、申し訳ないという気持ちでいっぱいになった。あの時、何かおばあさんを支えてあげられるような事ができていたら。そして、これからお年寄りの方とどのように接していくか、考えるきっかけにもなった。

あなたは、身近にいるお年寄りにどのように接していますか。困っている人を無視して通りすぎてはいませんか。声をかけるのは、とても勇気のいることです。時には見当違いとなってしまうこともあるかもしれませんが。それでは、助けを求められた時はどうでしょうか。私は、どうすればいいのか困ってしまい、「じゃあいいよ。」と言われることがよくあります。まずは優しく、丁寧に接することが大事なのだと思います。私も、これから心がけていきたいです。

人にした事は必ず返ってくる、とよく言いますが、それは自分の行動をそばにいる人が真似するからだと思うっています。私たち一人一人が世代に関わらず支え合っていくことで、本当の「支えあえる社会」になっ

ていくのではないのでしょうか。